



社会福祉法人新栄会
オルト保育園
令和6年度 東京都すくわくプログラム
ひ4歳



概要

1. ねらい
2. 環境構成
3. 色探し（1.2グループ）
4. 色探し（3.4グループ）
5. 色探しを終えての振り返り
6. 色づくり
7. 色づくりを終えての振り返り
8. 職員会議での共有と振り返り
9. 自分の色づくり
10. 保護者への共有
11. 振り返り



テーマ「色」





1.ねらい

子どもの姿を踏まえ、どうしてこのテーマになったのか
制作をする中で絵の具でピンク色を作った際にそれぞれのイメージする色が異なり、意見の食い違う姿が見られた。様々な色があるということを見出す中で他者との違いを感じ、互いに認め楽しんでほしいと感じた為。

育てたい子どもの姿（年齢別保育目標に基づいたねらい）

- 友だちと関わり合いながら一緒に活動する楽しさを味わう
- イメージする色を、自分で作り、色の違いを楽しむ
- 用具に慣れ、工夫して遊ぶ

保育士がすべきこと（ねらいを叶えるための環境・配慮点）

- 子どもの様子を見守りながら必要に応じて仲立ちになり自分の思いを伝えたり、思いを聞いたりできるような関わりをする
- 用具の使い方を伝える際に、子どもが経験しながら学べるようにしていく
- 絵の具、筆、紙等必要なものを十分に用意しておく

2.環境構成

- 一人ひとりの思いを受け止めたり、友だちとの対話・関わりが落ち着いてできるようにアトリエ内で小グループ（5－6名）で行う
- 色について、イメージがしやすいように、好きなもの等を考えてみる。
- カメラを使って、自分が発見したものを記録に残して振りかえりやすいようにする



アトリエ



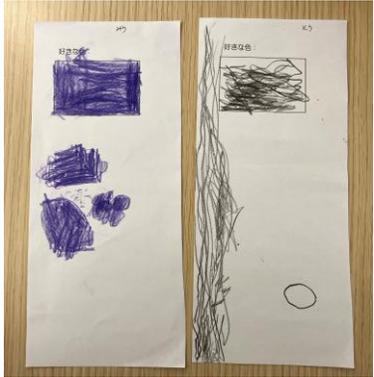


色探し

3.色探し - 1・2グループ-

ねらい

- 好きな色を選び、身の回りでその色のものを探す。
- 身近なものの色に注目しようとする。



活動の様子・子どもの姿の考察

好きなものの色を思い浮かべ、絵で描いてみるように声をかけると、子どもたちにとって親しみのある食べ物や環境、キャラクターなどを思い浮かべ、言葉にしていた。

「ぶどう」
「夜の空、あとは髪の毛」
「うみとそらと…あとなにがあるかな？」
「みずとか？」
「スパイダーマン」

イメージが浮かびにくい子どもには保育士と一緒に考えたり、友だちからヒントをもらったりなどして会話を交えながら考えていった。

保育士から好きな色が園内にあるか探してみようと声をかけると選んだ色と同じ色のものを園内で探し始めた。子どもが見つけたものを保育士が写真に残す。

「この赤うすいね」
「これピンクじゃない？」
「これは紫？」
「薄い黒もあった」

色の濃さ・薄さなどに注目する姿があった。

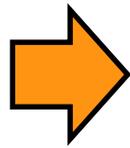
振り返り

- 少人数で行うこと・アトリエという閉鎖的な空間で行うことで、子ども同士の対話が促されていたり、集中する姿があった。
- 色鉛筆を使用したか、色の濃淡がわかりにくく、色の違いや濃淡がわかりやすいように園内で探すように声をかけていった。それによって色の違いに気付くなどのきっかけになった。
- 紙に描くことで自由に表現できるようにすると共に、記録に残り、それを見て再度イメージが広がっていくのではないかと思う。

4.色探し -3・4グループ-

ねらい

- 好きな色を選び、身の回りでその色のものを探す。
- 身近なものの色に注目しようとする。



活動の様子・子どもの姿の考察

保育士が好きな色を選び、その色のものを思い浮かべ、絵で描いてみるように声をかけると、子どもたちにとって親しみのある食べ物や環境、キャラクターなどを思い浮かべ、言葉にしていた。

「りんご。」

「桃があるけど描けないんだよね」

「ハートでいっか。あと宝石とか？」

「ぶどうがあるけど描けない」

としばらく手が止まる。他児がハートを描くのを見て真似して描いてみる姿があった。

保育士から好きな色が園内にあるか探してみようと声をかけると選んだ色と同じ色のものを園内で探し始めた。

カメラを持って探しに行った。園庭も探しに行きたいと声があがる。

「5歳さんのリュック」「ピンクの布があった」

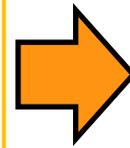
「Jちゃん赤ここにあるよ」「パプリカもあった」

「Kくん紫あったよ。こっちも…」

「あっちに（園外 道路）あった！」

「プールの宝石 紫だよ」

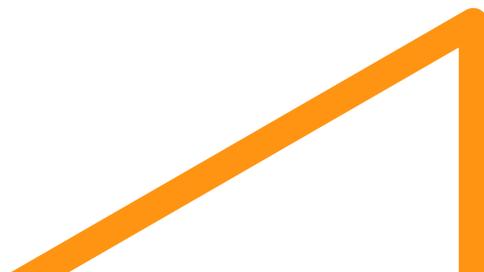
友だちと様々な会話をしながら楽しむ様子やが見られた。



振り返り

- 選んだ色のものがなかなか思い浮かばない様子が見られたが、子どもたちのやりとりを大切に、保育士が行き先を決めたり声を掛けすぎることのないように意識していった。また探す時間を長くしていったことで自分の色だけでなく、友だちの探している色と一緒に探そうとするなど、協力する姿が見られた。

- 子どもが見つけたものを自身で写真に撮れるようにしたことで、意欲的に探す姿が見られた。また見つけた色をすぐに写真に撮れたことで色探しを楽しんでいた。カメラを渡したことで、大人が気付かない子どもの目線のものに気づき、撮ることができた。



5.色づくりを終えての振り返り

- 担当の保育士の考察

子どもたちは、色の濃淡に気付き、アトリエでの活動を楽しむ姿があったが、今までカメラを使って活動をしたことがなく、特別な活動と感じたり、アトリエも頻繁に行くことが無かった為、子どもが満足している様子があった。

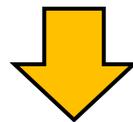
- これまでの活動を受けて、他の保育士から質問

アトリエでの活動は保育士からの提案なのか、子どもの声があったか？

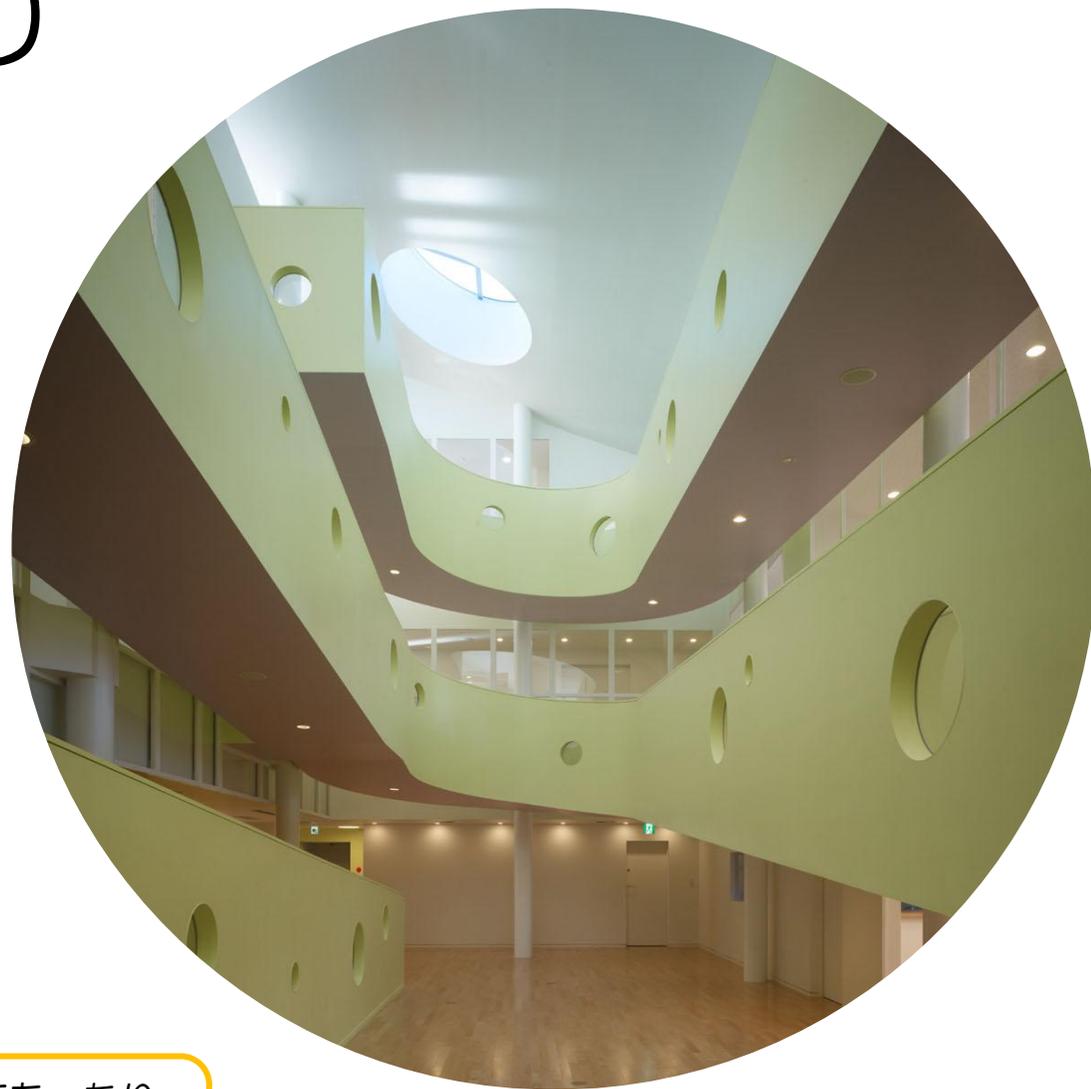
絵の具を使用したのはなぜか？



少人数での対話や子どもの気付きを保育士が見逃さないように周りからの刺激が少ないアトリエを選んだ。



絵の具を使用すると、混色であったり、色の違いがわかりやすいと思い取り入れた。



6.色づくり

ねらい

- 色の移り変わりや自分で作ることの楽しさを知る。
- 友だちと一緒に活動する中で協力したり、意見を共有したりする。



活動の様子・子どもの姿の考察

他児との違いに気付いたり、同調したりと関わりが持てるように2人組で行っていった。

“ピンク色のもの”の紙を見ながら気付いたことや思ったことを話す。
ピンクがいっぱいある。でもちょっと違うね
保育士がどのように違うかを聞く。

濃いピンク色を指して「こっちは少し黒い」

「これとこれは紫に見える」

「これは薄いピンクだね」

「赤と白を混ぜるんだよ」

「私、白するから、Nは赤をお願い！」

2人で一色ずつ混ぜていく。

パレットに色を出してそれぞれピンク色を作る。

「できた、ほら可愛いピンクでしょ」

自分が作ったピンクで描く。保育士が子どもの作った絵の具をもらって一緒に描いた。

その様子を見て、

「Sくんのピンクも混ぜたら可愛い」

「どれ？Sくんちょうだい」

と友だちの色で描く様子もあった。

振り返り

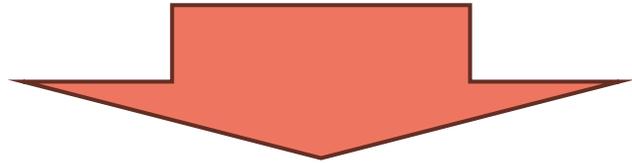
- 保育士も一緒に行ったことで、友だちの絵の具をもらって描くことに発展し、色の違いを発見していた。
- 保育士から声をかけ過ぎず見守っていくと、色の違いや、混ぜていく時の色の変化に気づき、子ども同士で話す姿があり、楽しさを感じているようだった。



7.色づくりを終えての振り返り

● 担当の保育士の考察

色づくりを楽しみながらも、絵の具そのものを楽しむ姿があった。色づくりではなく、絵の具そのものを楽しめる活動も取り入れていきたい。

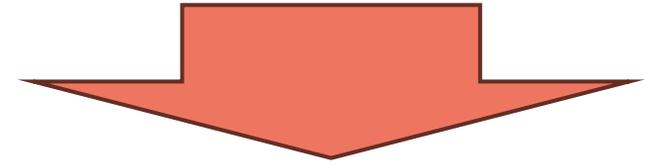


○キャンパスに好きな色を表現するねらい

- ・好きな色を作り、表現することを楽しむ。

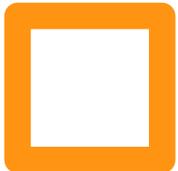
日頃の姿として…

- ・ 手洗いの時石鹸を沢山出して手を泡だらけにする。水道で水を溜めて水遊びをする。→声を掛けるまで楽しそうに続ける
- ・ 糊の入れ物に5本指を入れ、ぐちゃぐちゃと感触を楽しむ
→「五感を使った経験をし、その中に面白さや不思議さを感じて楽しむ」の段階なのでは？



○ボディーペインティング (5、6人ずつ)ねらい

- ・ 絵の具の感触の面白さや不思議さを感じる。
- ・ 手や足に絵の具を付けて大きな紙に表現してみる。
- ・ 活動の時には毎回白いTシャツを着て行うことで、活動を楽しんだ過程や時間の経過、経験の積み重ねの振り返りをする。



8. 職員会議での職員との共有と振り返り

グループで分けるねらいは何か？

色のテーマからは違ったテーマになった。

子どもの姿から
ねらい・環境設定を明確にした方がよいのでは
ないか

少人数での活動で
子ども同士の関わりや保育士がしっかり対応が
できたのではないか



友達同士の関わりが深まっ
ていくかも

色の違いや濃淡というテーマに沿った
保育士の声掛けや環境が適切だったの
だろうか
絵の具を楽しむというテーマはまた別
のプロジェクトではないか

それぞれの違いを認める関わり・視
点があった。

振り返りが保育士の行ったことになっている。
子どもの姿をどうとらえ、次に生かすかを記載
する必要がある。

子ども同士での対話が促された。

9.自分の色づくり

ねらい

好きな色を決め、イメージした色を作ってキャンバスに表現する



活動の様子・子どもの姿の考察

3原色と白で好きな色をパレットに作っていき、それをキャンバスに描いていった。

「白と赤を混ぜるとピンクになるんだよ」

「これを混ぜたら、なるかな？」

「あっ海みたい」

と色が変化していく様子や色から想像するイメージを口にしていった。

自分のイメージした色を作る子もいれば、

「難しいな」

と苦戦する子もいたが、絵の具が混ざっていく様子を楽しんでいた。

赤、青、黄、白をそのまま使う子はおらず、赤をイメージすると、他の色を混ぜて、明るい、暗い色を作って、自分のイメージを表現していた。

振り返り

キャンバスを使用したことによって、色より絵を描くことを楽しむ様子が見られた。

色づくりの過程でイメージを膨らませながら楽しむ姿があり、一人ひとりの発想のおもしろさや違いに気付くことができた。

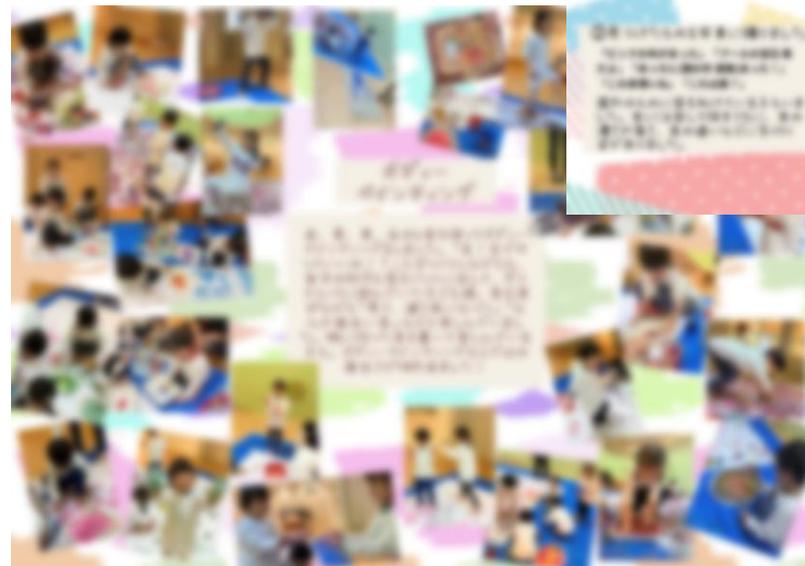
10. 保護者との共有

令和7年2月 オルト展

キャンパスとその過程（ドキュメンテーション）を掲示して保護者と共有をした。



活動の際にドキュメンテーションで掲示





11. 振り返り

- 子どもが楽しんでいたことが何よりよかったと感じたが、ねらいや環境、保育士の関わりについて、ねらいに沿っていない事や、ポイントがずれてしまったことにより、活動そのものに変化があった。
- ねらいに基づく環境の設定の重要性に気づくことができた。また担当以外の保育士からのフィードバックや振り返りによって自身では気が付きにくい視点を学ぶことができた。
- 子どもが自身で探究し試行錯誤をしながら進めていく姿を見て、保育士も学ぶことができた。



ご覧いただきまして
ありがとうございました。

社会福祉法人新栄会
オルト保育園